

万代和歌集

卷第三

夏歌

寛和二年内裏家歌合に、螢を

按察使行成

いさりびのうかべるかげと見えつるは
なみのよるしるほたるなりけり

六条右大臣家歌合に

藤原季房

さ月やみさわべのくさはしげけれど
かくれぬものはほたるなりけり

?子内親王家歌合に、草螢似露といふことを 美作

ひかりそふゆふべのつゆと見えつるは
くさばにまがふほたるなりけり

健保四年院百首に

前中納言定家

さゆりばのしらねぬこひもあるものを

身よりあまりてゆくほたるかな

「国歌大観」より